

JIRCAS-CAAS 農業科学技術研究協力 20 周年記念シンポジウム 挨拶

伊藤優志 在中国日本大使館経済部参事官

本日ここに 20 周年記念シンポジウムが開催されることに対しまして、お祝いを申し上げます。JIRCAS 及び CAAS の共同研究は、開始されて既に 20 年間継続しています。関係各位の最大限の御尽力と切り離せないものであり、敬意を表します。

JIRCAS 及び CAAS では、この 20 年間で 5 つの共同研究プロジェクトに取り組み、東アジアの農業生産の安定や環境保全型農業の育成に寄与されてきたと聞いております。

また、2011 年には、両者は無期限の共同研究に関する覚書き (MOU) を締結され、両者の結び付きはより強固になったと承知しています。

現在進行中の 5 つ目の共同研究プロジェクトでは、高い付加価値の米や蕎麦の流通及び消費について調査分析をされていると聞いています。私は、今からその研究成果の発表が待ち遠しく、その成果が日中両国の政策に反映されることを期待しています。

日中の農業分野における行政機関間の最近の動きについて簡単に紹介します。昨年 6 月には、農林水産省と農業部のそれぞれの局長級を責任者と位置付け、農業分野の意見交換の枠組みである日中農業グループ会議が組織され、既に 2 回の会合が開催されました。また、日中両国の幹部間の交流も盛んになっており、昨日は山本農林水産大臣と余農業部副部长との会談が行われたところです。

日中両国の農業、農村は異なる部分もありますが、御存知のとおり、例えば、食糧の安全保障、農業の持続的発展などは日中両国共に重要な政策課題です。このように両国に共通し、又は類似する事項は、多くあります。

私は、今後も本共同研究のプロジェクトを始め、日中両国が様々な機会を利用して、意見交換し、協力し合うことは、共通する政策課題の解決に向けて非常に意義があると考えます。

また、本シンポジウムの実施を通じて、日中両国の研究者間の交流の輪が拡大し、農業分野における友好関係が益々深まることを念願致します。そして、本日御参集の皆様の益々の発展を祈念致します。

以上、林公使からの挨拶を代読させていただきました。

本共同研究プロジェクトにつきましては、研究成果以外にも、日中間の研究者同士の交流、研究人材の育成に大きな役割を果たしたと思います。本日、皆様とこのような御縁ができるのも本共同プロジェクトが継続しているからであり、本共同プロジェクトに感謝します。

最後になりますが、中国では赤色は幸せを表すと聞いています。このため、私は赤色の

ネクタイを締めるのを従来から好んでいます。本日も、赤色のネクタイを締めて参りました。この赤色のネクタイを通じて、再度、本日の開催を心からお祝い申し上げます。

以上、挨拶と致します。皆様ありがとうございました。